第41回赤旗まつりに15万人

いっせい地方選挙勝利誓い合う

栃木県のテント前に集まり、いっせい地方選挙での党躍進を誓い合った参加者

日本共産党は、第41回赤旗まつり（1～3日、東京・夢の島公園）を開き、3日間で約15万人が参加しました。栃木県内から約800人が集いました。2日目には、栃木県のテントで選挙勝利めざす決起集会を開催。安倍内閣打倒のたたかいをすすめ、来年のいっせい地方選挙で県議会の空白克服、市町議選での勝利を誓い合いました。

まつりのメインは、2日目に中央舞台で行なわれた志位和夫委員長の記念演説。「日本の政治の希望ある未来を開こう」と呼びかけ、会場を埋めつくした数万人の聴衆が拍手と声援で応えました。

決起集会では、塩川鉄也衆院議員と紙智子、大門みきし両参院議員の3氏がそれぞれあいさつし、野村せつ子県議予定候補は「県民の声を代弁する議席を取り戻すために全力をあげる」と決意表明。また、地方選の後半戦をたたかう予定候補者が紹介され、荒川恒男、福田久美子（宇都宮）、石川正雄（小山）、尾関栄子（足利）、飯塚正（真岡）の各市議と那須町議選（来年2月10日告示、15日投票）に出馬予定の新人の小野よう子氏らがあいさつしました。

全国物産店・模擬店には、栃木市の「つが野焼」など6店舗が出展しました。

栃木民主新報
日本共産党栃木県委員会
発行人　小林年治
栃木県宇都宮市東浦町21-12　〒321-0167
電　話028(658)4302
ＦＡＸ028(658)4374
発行日　毎月第3日曜日
1カ月100円

いっせい地方選候補者2次発表

日本共産党栃木県委員会は10月30日までに、来年4月におこなわれるいっせい地方選挙後半戦で、4市にいずれも現職の5人を候補者に擁立することを決定しました。（選挙区の下のカッコは定数）

◇宇都宮市（45）
定数2減
荒川恒男　68　現
福田久美子　57　現
◇足利市（24）
尾関栄子　61　現
◇小山市（30）
石川正雄　69　現
◇真岡市（21）
定数7減
飯塚正　63　現
いっせい地方選挙後半戦の市議選は、4月19日告示、同26日投票日の予定です。

小野よう子

那須町議選 小野よう子氏

来年2月25日任期満了（2月10日告示、15日投票）の那須町議選（定数16）で、日本共産党県委員会は、小野よう子氏（59）＝新＝の擁立を決定。深沢宏美町議の現有議席の確保に挑みます。

いいづか正　真岡市

石川まさお　小山市

おぜき栄子　足利市

福田くみ子　宇都宮市

荒川つねお　宇都宮市

安倍政権の「亡国の政治」と決別し未来に責任を負う新しい政治を

日本共産党演説会

党書記局長・参議院議員
弁士 **山下よしき**

12/13(土)

前県議 野村せつ子
いっせい地方選挙予定候補もごあいさつします。

●午後2時半開会（2時開場）
●会場：栃木県教育会館大ホール
入場無料
宇都宮市駒生1丁目1番6号　TEL:028-621-7177

新婦人県本部創立50年のつどい
豊かな支部活動を交流

活動を発表する支部の代表ら

新日本婦人の会栃木県本部は10月18日、笠井貴美代中央本部会長を迎え、創立50年記念のつどいを宇都宮市で開き、約320人が参加しました。県内の全11支部の代表らが、女性の要求などをあしらったタペストリーを掲げ、リレートークしました。

笠井会長は「輝け平和を守る女性たち」と題して講演。新婦人の歴史を紹介したうえで、「この歴史を受け継ぐために何が大切か」と問いかけ、「集団的自衛権の行使を容認する安倍内閣に立ち向かう姿勢を明確にすることだ」と強調しました。

活動報告では、塩谷町の新婦人しおや班の柿沼武子さんが「放射性廃棄物処分場計画を白紙撤回させるまで、町民といっしょに頑張ります」と決意を述べました。

来賓で日本共産党県委員会の野村せつ子副委員長（県議候補）が紹介されました。

米軍と連携深める自衛隊
平和委　朝霞駐屯地視察

現地で説明を受ける視察団

宇都宮市平和委員会（石川輝雄会長）は10月24日、約20人が参加して、陸上自衛隊朝霞駐屯地視察ツアーを実施しました。

同駐屯地には、宇都宮の二つの駐屯地が所属する東部方面隊の総監部があり、参加者からは「米軍と陸自の連携強化を肌身で感じた」「広報センターに遠足で来る幼稚園もあると聞き驚いた」などの感想が出されました。

野村せつ子県議予定候補も参加しました。

一行は、日本共産党朝霞市議団などの案内で、同駐屯地広報センターや基地周辺を視察。12月にかけ日米合同演習が計画されています。

松本弁護士迎えた映画と講演
松川事件から今の日本を考える

上映後、松本弁護士の講演に耳を傾ける参加者

65年前の冤罪事件・「松川事件」を題材にした映画「にっぽん泥棒物語」（監督・山本薩夫）を鑑賞し、同裁判に関わった松本善明弁護士と語り合う集いが10月25日、宇都宮市城山地区センターで開かれ、125人が参加しました。主催は「にっぽん泥棒物語を見てこれからの日本を考える集い実行委員会」。

木塚孟副実行委員長は「集団的自衛権行使の背景に日米安保条約があります。松川事件はこの条約締結に反対する運動を弾圧するために仕組まれた事件だった」と強調。「秘密保護法施行や集団的自衛権行使のための法整備を阻止するための運動の一助にしたい」とあいさつ。

松本弁護士は、集団的自衛権の行使が憲法違反であることを指摘し、「戦争する国づくりをすすめる安倍内閣をやめさせるために、力を合わせよう」と呼びかけました

国保、保育などの「新制度」で講座
とちぎ自治研究所

とちぎ地域・自治研究所は11月9日、宇都宮市で「第12期とちぎ自治講座」を開催しました。神奈川県社会保障協議会の佐々木滋氏が「国保財政の現状と広域化問題～社会保障制度の行方」と題して講演しました。

「谷中村の遺跡を守る会」
再編総会　運動に弾み

旧谷中村（現在・栃木市）の遺跡を守り、日本と世界にとって貴重な遺産です。遺跡を歴史を語り継いできた市民団体「谷中村の遺跡を守る会」の再編成総会が10月26日に開かれました。

新会長となった高際澄雄宇都宮大学名誉教授は「谷中村の遺産は、それぞれ講演しました。

参加した地方議員らは研究所の逆井直紀氏が「新制度」による社会保障の切り捨策などについて、深め合っていました。

栃木県政はいま…　シリーズ第6回
2014年度県政世論調査
「暮らし向き悪い」5年ぶりに増加

県が実施した2014年度県政世論調査で、暮らし向きが「悪くなった」と感じている県民が5年ぶりに増加したことが分かりました。同調査は、毎年実施しています。今年度は、今年5～6月に20歳以上の2千人を対象に行なわれ、1318人（65・9％）から回答がありました。

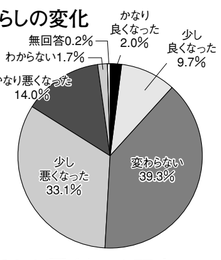
暮らし向きについて、「悪くなった」と答えた県民が47・1％を占め、前年度の44・0％を3・1ポイント上回りました。

「悪くなった」と答えた人に、その理由を聞いたところ、「物価上昇」が最多の32・7％。昨年度の13・4％から19・3ポイントも急増しました。次いで「不景気（倒産・経営不振・解雇）」の26・1％でした。

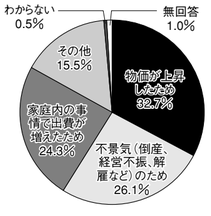
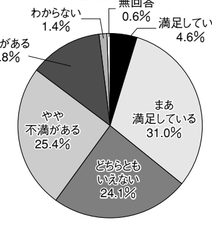
「今後の社会の変化で関心をもっていること」との問いでは、80・3％もの人が「高齢化の進行に伴う医療、福祉、年金などの社会保障制度の行方」と回答しました。

調査結果について、日本共産党の野村せつ子県議候補は「収入が増えない中、消費税増税と物価上昇に対する県民の不安の高まりを示しています。県民の生活不安を取り除く県政の実現のために力を尽く

暮らしの変化



暮らしが悪くなった理由



暮らしの満足度